「彦根城」世界遺産登録に係る推薦書（案）の提出に対するコメント

令和７年８月に文化審議会から課題等を示されて以降、いただいたご示唆に的確に対応した推薦書（案）を作成するべく、文化庁や彦根市と協議を重ねながら着実に取組を進めてまいりました。

これまで、積極的に活動いただいている地元の皆さまのみならず、超党派の国会議員からなる議員連盟が３月に設立されるなど、力強い応援・協力をいただきながら、今年度の国内推薦決定、そしてその先にある、令和10年の世界遺産登録実現を目標に、関係者が一丸となって歩みを進めてきたところであります。

そしてこの度、その集大成となる、彦根城の世界遺産登録に向けた審議に必要な推薦書（案）を提出いたします。

今後、国の文化審議会での審議が進められるものと思いますが、本県としましては、約250年にわたって、安定した社会秩序を維持した「徳川の平和」（パクストクガワーナ）と呼ばれる、世界でも注目される時代を支えた「大名統治システム」と、その独特な政治体制の拠点として、なくてはならない役割を果たした江戸時代の城が、世界的な観点から見て顕著な普遍的価値を持つこと、そして、その江戸時代の城の中でも、彦根城がいかに重要な城であったかについて、分かり易くかつ丁寧に説明し、より多くの方にご理解いただきたいと考えております。

今回の推薦書（案）の提出により、彦根城の世界遺産登録が一層現実味を帯びてきます。引き続き、令和10年登録の実現を目指して邁進してまいる所存です。

一方で、世界遺産登録はゴールではなく、彦根城の世界的な価値を伝え、次世代に引き継いでいくことが何よりも重要であるため、今後とも、文化庁をはじめ、国の文化審議会や彦根城世界遺産登録推進協議会の学術会議、その他多くの関係者の皆さまの御支援・御指導をいただきますよう、併せてお願い申し上げます。

令和８年５月25日

滋賀県知事　　三日月　大造